

平成26年ホヤ類調査結果速報 No. 3

平成26年9月19日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

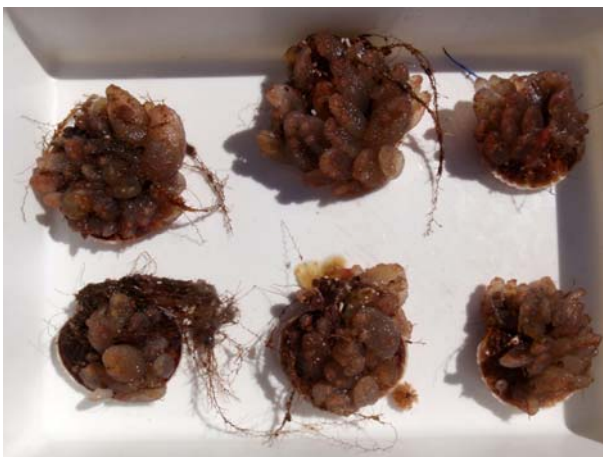
【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

9月16日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は減少しました（図3上）。体長5mm以下の割合は低下しており（図2）、8月下旬以降、付着が少なかったと考えられます（図2）。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり28.8個体で、H22、25より少なく、H23、24より多い結果です（表1、図3）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生の出現は継続していますが、過去のデータと比較すると、密度は低くなっています（図4-2）。
- 「付着個体数の増加が収まり、新規付着個体の割合が低下していること」および「浮遊幼生密度が比較的低いこと」から、状況に応じて、貝洗等の対応を進めてください。

図1 耳吊ホタテガイ（左）とヨーロッパザラボヤ（右）平成26年9月16日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL：0138-83-2893 FAX：0138-83-2849

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：9月16日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ 1枚あたり 28.8 個体で、平均サイズは 17.8mm です（表 1、図 2）。付着重量は 31.5g と先月の 8.8g から大きく増加しました。今後、付着個体の成長に伴い、付着重量が増加すると考えられます（図 3 下）。

表 1 付着生物調査結果（八雲地区：平成 26 年 9 月 16 日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	56.1g	51.4g	27.0g	44.8g
ヨーロッパザラボヤ	29.7g	41.9g	22.9g	31.5g
その他	26.4g	9.5g	4.1g	13.3g
ヨーロッパザラボヤ個体数	26.4個体	26.8個体	33.2個体	28.8個体
平成25年9月(H25.9.10)の個体数	8.8個体	35.6個体	58.0個体	34.1個体
平成24年9月(H24.9.20)の個体数	7.4個体	15.8個体	45.6個体	22.9個体
平成23年9月(H23.9.26)の個体数	5.4個体	12.6個体	15.0個体	11.0個体

図 2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成 26 年 7 月～9 月）

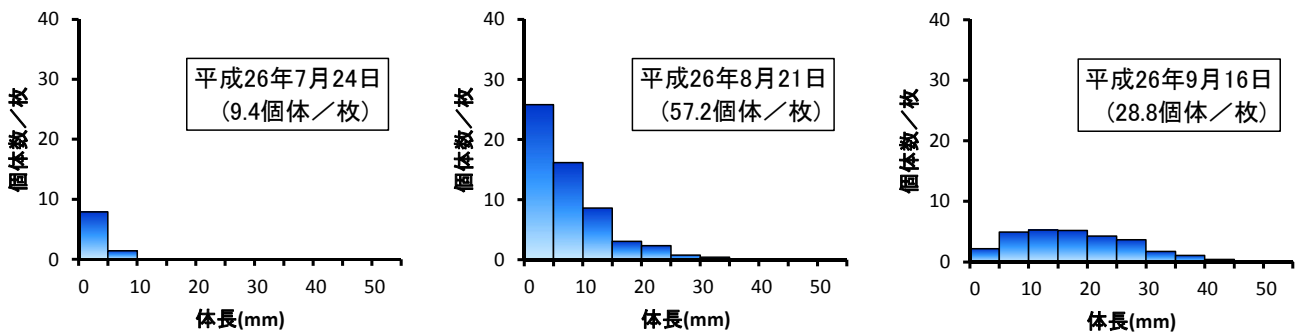
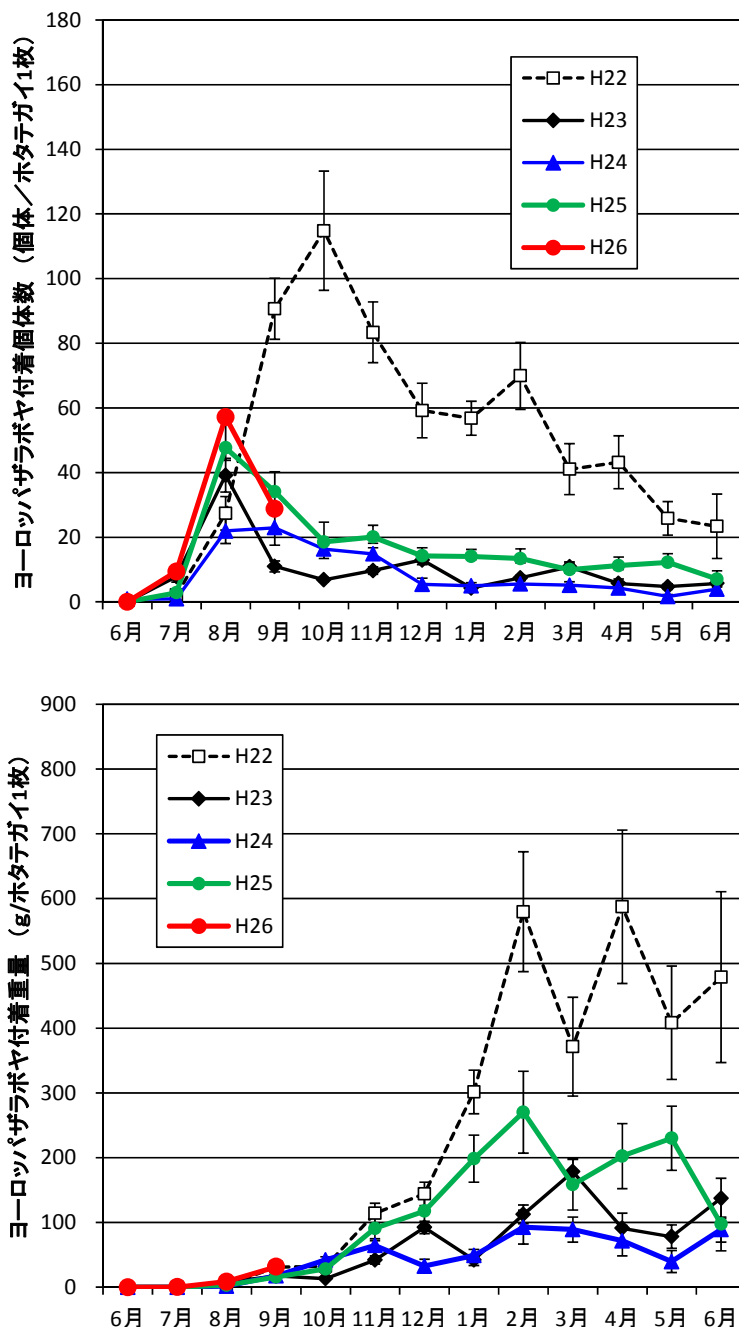


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。H22～H25 はいずれも7月からホタテガイへの付着が本格化しています。H22は付着期間が長期化し、ホタテガイ1枚あたり100個体を超えました。H23～H25の付着期間は比較的短く、ホタテガイ1枚あたりの付着個体数は最大20～50個体でした。その結果、H22は冬季（収穫期）に付着重量が急増したのに対して、H23～H25の付着重量の増加は緩やかでした。H26は9月の調査で個体数が減少に転じており、今後はH23～H25同様に、比較的緩やかに付着重量が増加していくと考えられます。

2：浮遊幼生調査結果

2-1. 八雲地区（八雲漁港沖合）調査結果

〔調査月日：平成 26 年 9 月 16 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m〕

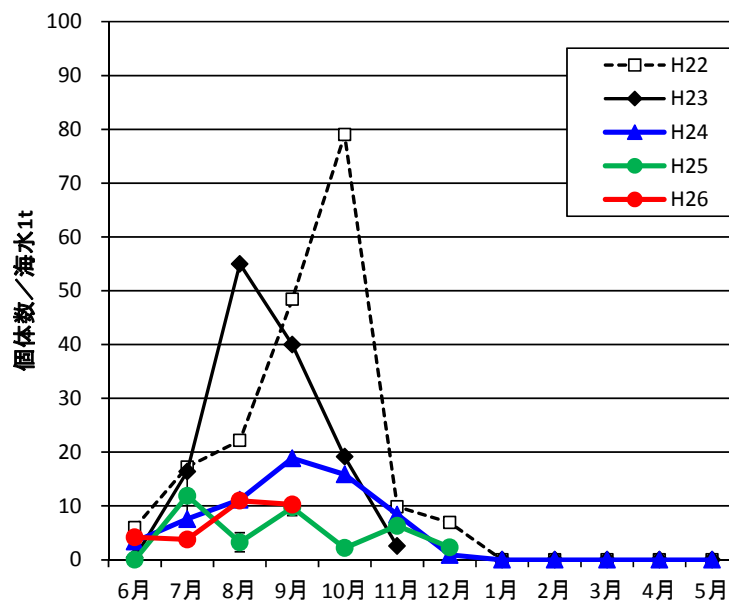
ヨーロッパザラボヤの幼生（図 4-1）は 2 地点の平均で海水 1t あたり 10.3 個体でした（図 4-2）。先月の調査では、海水 1t あたり 11.0 個体でしたので、浮遊幼生密度はほぼ横ばいです。同時期の過去のデータと比較すると、密度は低い状況です。

図 4-1.ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温 20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約 14 時間で孵化します。図 4-1 は 20℃条件で受精から 22 時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温 20℃の条件で、孵化から 6 時間後（受精から 20 時間後）には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図 4-2.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）



（参考）噴火湾の「ザラボヤ」について

平成 20 年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ（通称「ザラボヤ」）は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法等については、北海道立総合研究機構水産研究本部 HP (<http://www.fishexp.hro.or.jp/>) に公表されている以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—（試験研究は今 No.707）
- ・金森誠：外来種ヨーロッパザラボヤの道内の分布について（試験研究は今 No.731）
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について（北海道水産試験場研究報告 81：151-156）